

金沢の実践 ― 3つの授業について ―

宗 末 勝 信

1. 授業計画

これまでの放送教育は、「情報の受け手」としてマスメディアから送られてくる「単一情報」に依存しながら取り組まれてきた。これからは「情報の使い手」として、自らが選択したメッセージと放送とを重ね合わせる形での授業を創造していくことが求められる。ここでは、放送番組の持つ特性（生の持つ衝撃性、資料としての典型性）を生かしながら、メッセージを意図的に重ね合わせ授業効果をさらに高めるメディアミックスの実践的研究について述べる。

① 基幹番組の分析

○基幹番組

～竹で掘る砂漠の井戸～ NHK学校放送番組『みんな地球人』

(ア) 教師のねがい

メディアミックスでは、『アクターとしての教師から、デザイナーとしての教師に』ということが一種のスローガンのように唱えられている。デザイナー（設計者）として求められているのは、教科の目標に合わせて放送番組を位置づけたり、分断・部分視聴させるといった次元ではなく、教師と放送番組との葛藤の上に発生する新たな問題意識を基本にすえることである。図表－1は、基幹番組を視聴した後に考えた1人1人の教師の願いである。このように同じ番組を視ても、「外国」と「日本」のように、それぞれが違った立場で視聴する。まず、この「教師のねがい」を大切にしていくことを基本に授業設計をスタートした。

(i) 番組のねらい

次に、最初に持った「教師のねがい」と「番組のねらい」を噛み合わせていく必要がある。番組分析は、客観性を持たせるためチームを組んで行った。そ

図表－１ 基幹番組視聴後の教師のねがい

教師	キーワード	ね が い
A	海外協力	日本は海外の国々の開発にいろいろな形で協力しているが、経済的な協力だけでなく人的協力もしている。
B	伝統技術 人類愛	今では日本国内では省みられなくなった伝統的な技術も、外国で生かされようとしている。日本人が古来考え出して現在まで伝えてきた技術の優位性と、世界のために日本の技術が生かされてきているという喜び。
C	発展途上国 自分の生活	開発途上国の現状とどんな技術協力や援助を求めているのかを考えさせることで、その土地に住む人々の願いと自分の願いとの大きな差に気づき、自分の生活を見つめ直す。
D	国際協力	思いがけない形で海外協力の１つとして役立つ技術がある。国際協力といえば国と国との関係と考えるが、身近にできることがたくさんあることを知る。
E	伝統技術	日本には忘れ去られようとしているすばらしい技術がたくさんある。昔の人は実にすごかった。自分たちの身の回りにも役立つ技術がありそうだ。
F	国際理解	海外協力にはどんな方法があるか、また本当にその地域の人々の生活向上に役立っているのかを考える。

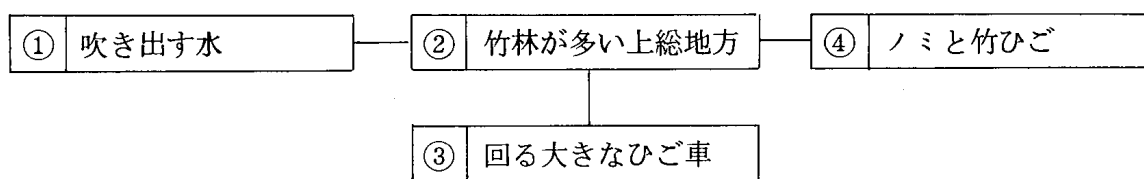
の際、ただ漠然と視聴するのではなく「番組の意図」「番組の客観性」「番組の中心場面」「番組の構造」などにポイントをおき、視聴メモは、「大切なシーン（キーシーン）」や「心が動かされたシーン（シンボルシーン）」などを取るようにした。個人個人の番組視聴が終わった後は、ディスカッションをしながらまとめていく。図表－２はこうした作業の結果作成した「キーシーンのマトリックス」である。この表から、複数の教師が選んだキーシーンのうち、シーン１１「喜ぶミンダナオの人たち」がシンボルシーンと分かる。しかし、これだけでは他のシーンとの関係が見えてこない。そこで、「キーシーン関連図（図表－３）」を作成してみると、２つのタイプが出てきた。Ａタイプは、

図表－２ キーシーンのマトリックス

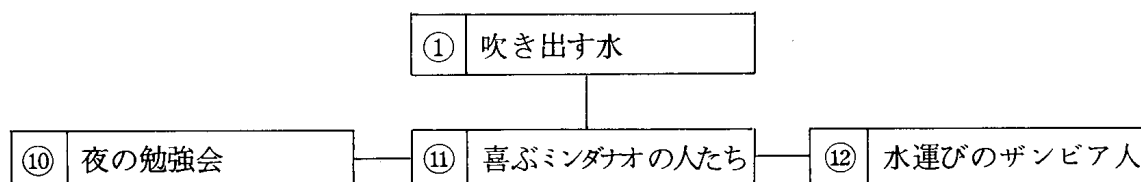
	キーシーン	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	計
①	吹き出す水		*4	2							1	*6	1	*14
②	竹林が多い上総地方				3									* 7
③	回る大きなひご車							1			2	1		* 6
④	ノミと竹ひご								1			1		* 5
⑤	水を入れておく													0
⑥	つつく（掘る）								2			1		3
⑦	上総掘りのしくみ											2		3
⑧	勢いよく吹き出る泥											1		4
⑨	とってを付けて掘る													0
⑩	夜の勉強会											*7	2	*12
⑪	喜びミンダナオの人たち												*5	*24
⑫	水運びのザンビア人													* 8

図表－３ キーシーン関連図

〔 Aタイプ 〕（日本の伝統技術）



〔 Bタイプ 〕（国際協力）



上総掘りの仕組みに着目し「日本の伝統技術」にウエイトがかかっている。一方、Bタイプは、シーン11を中心に上総掘りをしている人々を通して、「国際協力」ということがクローズアップされている。つまり、この番組に込められているメッセージのキーワードとして、「日本の伝統技術」と「国際協力」という2つを挙げる事ができた。

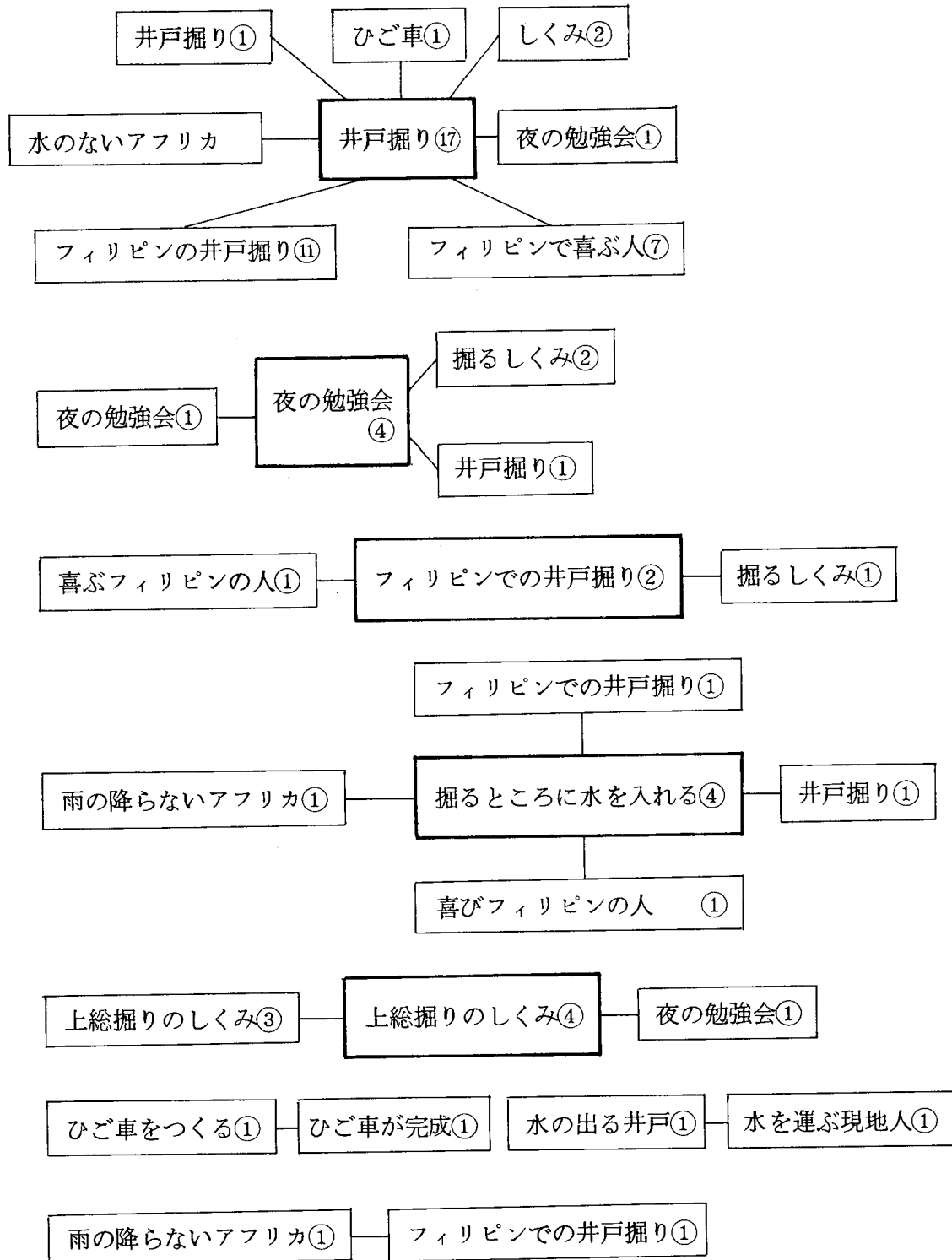
(ウ) 授業のねらい

授業のねらいをはっきりさせるということは、子どもの思考活動の根幹となるものを作ることである。放送教材を利用する場合、「番組（メッセージ）」と「教師（ねがい）」が自由に絡む形になる。また、ねらいを設定するにはどうしても避けて通れない視点として「子ども」がある。「子どもたちはどんなところに目をつけて視聴するのだろうか」また、「どんなシーンとどんなシーンを結び付けようとするのだろうか」「どんなことにどんな感想を持つのだろうか」といったことを予め知っておくことが大切である。そのため子どもの視聴実態を探ってみた（図表－4）。子どもたちの選んだシーンをみると、「井戸掘りをしているところ」が大変多く、重要なシーンとして捉えていることが分かる。また、「喜ぶミンダナの人たち」と「フィリピンでの井戸掘り」を結び付ける子どもが多いことから、「国際協力」の方にも意識が向いている。これらのことから、子どもの視聴実態と教師の番組分析の間には、大きな「ずれ」がないことが明らかになった。しかし、いずれも「日本の伝統技術」と「国際協力」のうちどちらか一方にウエイトがかかった視聴をしており、両方を関係づけて捉える視点はあまりみえない。そこで、まず、この2つの視点のうちどちらに重点をおくかで、授業のねらいがどのように変化するかを見てみることにした（図表－5）。その結果、3つのタイプの授業パターンができてきた。

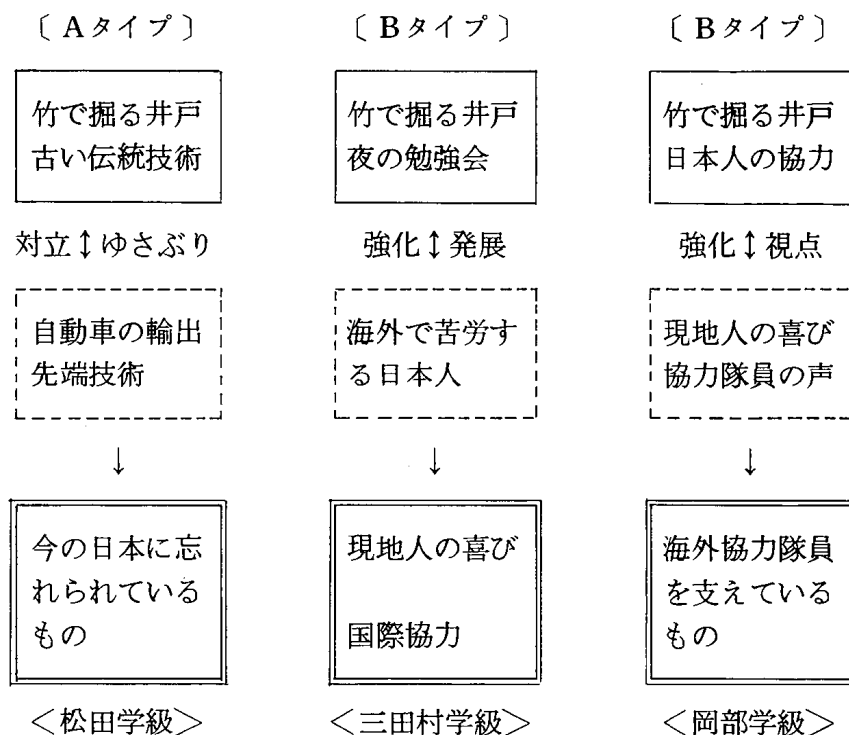
○メディアミックスの授業実践学級

- | | |
|-----------------|-----------|
| ・金沢市立伏見台小学校5年2組 | 松田恵美子教諭指導 |
| ・金沢市立富樫小学校5年1組 | 三田村英明教諭指導 |
| ・金沢市立材木町小学校5年1組 | 岡部昌樹教諭指導 |

図表－４ 児童の番組視聴の実態（キーシーンのつながり）



図表－5 思考関係図



以下、3人の教師の授業設計から実施、そしてその評価と追いかけてみる。

<松田学級>

子どもたちは、社会科の学習を通して日本の技術がトップレベルにあることを学習している。中には、この進んだ技術だけが世界の役に立つと思っている子どもかなりいる。そのような子どもたちが「技術」という視点でこの番組を視聴すると、自分たちでさえ知らなかった日本の伝統的な技術が思いもかけない他国で役に立っている事実には驚くだろう。このような「技術」についての2つの事実を対比することで、日本が外国とのつながりの中で生きていくためには、現地の事情を考えることがいかに大切であるかということに気付かせたいと考え、次のようなねらいを設定した。

日本は優れた技術で世界の国々とつきあっているが、「ハイテク技術」の相手国への影響を知り、「竹で掘る砂漠の井戸」のような古い技術の中にも喜ばれるものがあることに気付く。

<三田村学級>

「国際協力」という視点で番組を視てみると「竹で井戸を掘る技術を身につけようと実習に励む青年」「夜遅くまで現地の様子について学習する人々」というメッセージが浮かび上がってくる。しかし、これらはすべて「援助する側」から捉えられたメッセージといえる。そのため現地の人達の喜びを内面にまで踏み込んで理解させることはできない。現地の実情を知らせることがどうしても必要になってくる。水を得た喜びの背景には、水のない苦しい生活があり、協力隊員には自分たちの技術が現地の人々を救ったという喜びがあることに気付かせる。

「竹で井戸を掘る技術の習得に励む人々」の様子と「水がない現地の人の生活」を知り、現地でお互いに協力して井戸掘りをする中で湧き上がる「喜び」について考える。

<岡部学級>

アフリカだけでも500人近い青年たちが海外協力事業に参加している。この青年たちがいったいどんな思いを抱いて活躍しているかを理解しようとすることは、今後子どもたちが国際人として生きていくため、とても大切なことである。しかし、この番組だけでは「国際協力」の必要性や「実習に励む青年」の心情を捉えることが難しい。そこで、もっと現地の実情や現地の青年たちの活躍の様子が解れば、青年たちの心情理解に一步でも迫ることができるのではないかと考えた。

「竹で井戸を掘る」日本の簡便な技術を開発途上国の生活に生かすため、技術の習得に励んでいる青年の活動を知るとともに、その心情を探る。

② 授業イメージの高め方

(ア) 学習イメージ図

メディアミックスの授業設計の中で最も大切な部分がここに当たる。また、「授業のねらい」を設定する際に想定していた「子どもの学習イメージ」が明確になる段階である。ここまでに「授業のねらい」は「番組のねらい」「教師のねがい」「子どもの実態」を踏まえてはっきりとした形に表現することができている。そこで、メディアミックスの授業の構想を練り上げる「学習イメージ」の作成に移る（図表－6, 7, 8）。

<松田学級>

優れた技術とは何であるかを考えるには、日本の自動車技術のような「進んでいる技術と他国とのつながり」に気付く必要がある。その上で新しい機械よりも、むしろ水牛のような「日本の古い技術が役立つ国」があるという情報を知れば、意外性を持って日本の優れた技術と外国とのつながりについて考えることができる。この2つの情報により、子どもたちには、「先端技術がすべての国で喜ばれているわけではない」というイメージが作られる。さらに、「竹で掘る砂漠の井戸」を視聴すれば、「簡単な技術だからこそ現地で喜ばれている」「日本には新旧を問わず優れた技術がある」という捉え方ができるだろう。その結果、「相手国の事情を十分に考えて使う技術こそが、優れた技術なのだ」という学習イメージが形成されるだろう。

<三田村学級>

現地の人達と海外協力隊員の人達の「喜び」について考えるには、基幹番組の「日本人」と「現地の人たち」の喜びを対比して捉える必要がある。しかし、番組では現地の人たちの様子をほとんど紹介していないため、水が出ることが何故そんなに大きな「喜び」となるのかを十分に理解することができない。そこで、「泥水を飲む」ほどの水不足に苦しんでいる現地の生活、海外協力隊員の活躍できれいな水が手に入り「大喜びする少年たち」の様子を捉えた情報が必要になる。この情報がミックスされて初めて、「現地の人と協力隊員が共に夜を明かして踊る喜びとはいったい何であるかを考える」学習イメージが形

成されるだろう。

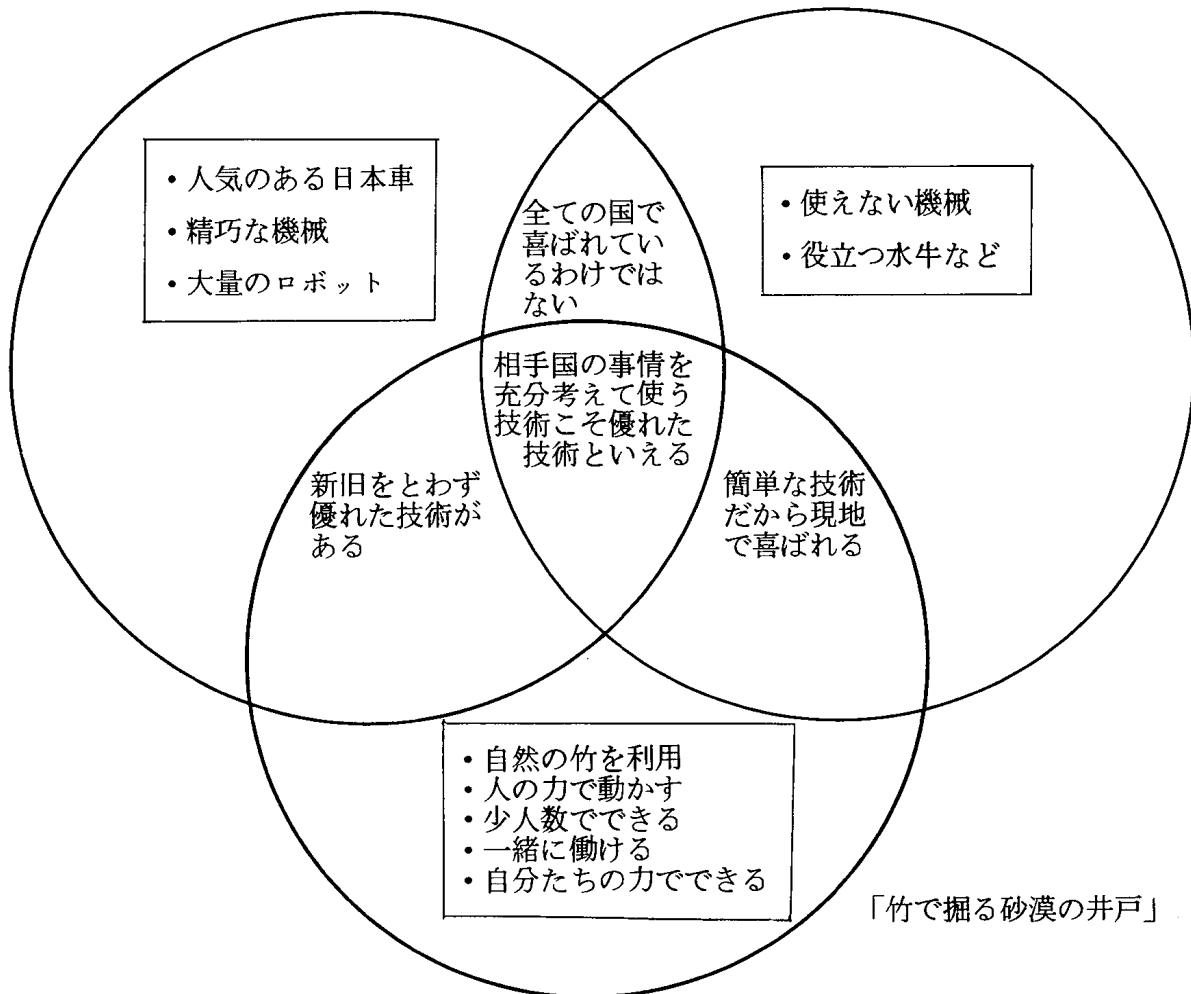
＜岡部学級＞

上総掘りの技術を海外で生かそうとしている青年の心情を理解するためには、「技術の習得に励む青年」や「夜遅くまで学習する青年」に視点を当てて基幹番組を視聴することが大切である。そのためには、「大変苦勞する水汲み」「水を求めての移動」といった現地の人たちの生活の実情をある程度理解させる必要がある。さらに、水不足の解消に向けて、技術協力している日本人青年が、現地の人たちに喜ばれているという情報を知ること大切である。それによって「自分たちの技術を現地の人たちの生活向上に役立てたい」と願っている青年の心情をイメージ化することができる。しかし、これだけでは日本の「伝統技術」を身につけようとしている青年の心情を深く理解したことにはならない。たくさんの海外協力隊員が現地で何を学んできているかという情報を知ることによって「技術援助によって、現地の生活向上に役立ちたい」という願いに加えて「共に協力して仕事を成し遂げることのすばらしさ」が青年を支えているのだという学習イメージが形成されるだろう。

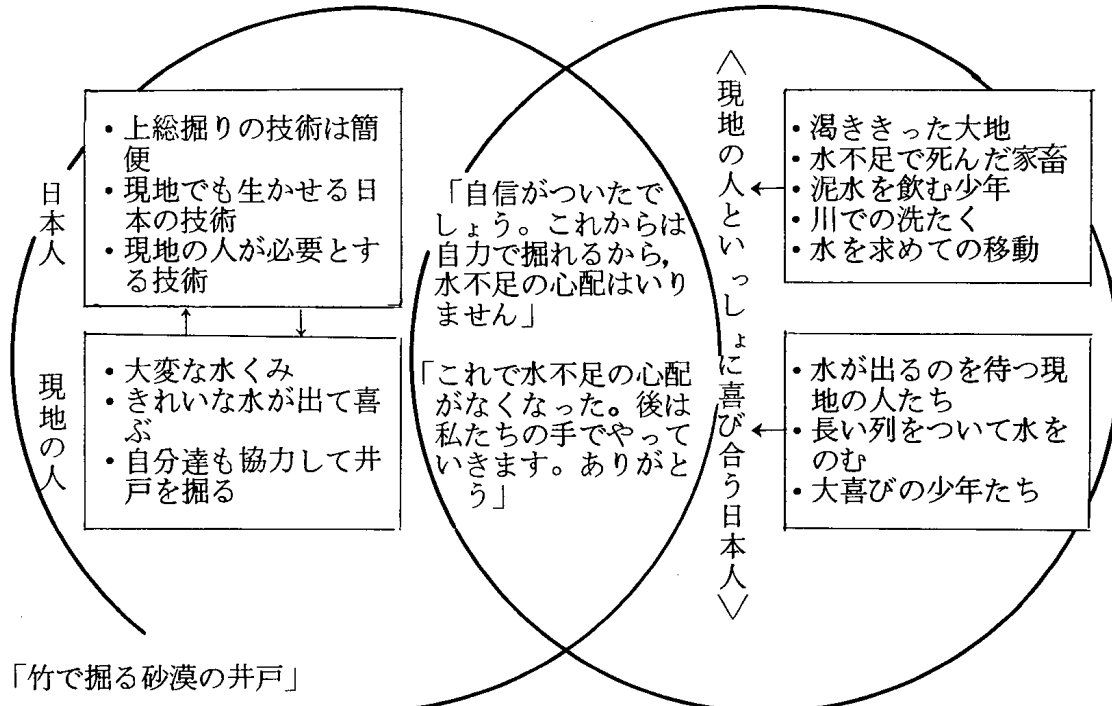
(1) メディアによるミニ授業

一連の設計手順を踏み、子どもに提示するメッセージ・メディアが決定し、授業後にアウトプットとして出てくる学習イメージが分かった段階で、数人の子どもを対象にマイクロティーチングを行う（図表－9）。1グループ3人の子どもたちに2つの映像を見せ、その後自由に思いついたことを話し合うという手法を採った。その際、教師は発言を控え、メディアのコントロールを中心に進めるようにした。それは、子どもたちが教師の提示する複数のメディアから何を知り、どう感じるかを分析し、この後の授業展開案の作成にまでもっていくことを意図したためである。このミニ授業を通して、フリートーキング1より、基幹番組を視聴すると「しかけの工夫」「水と生命力」「外国への技術援助」という大きく3つの視点で受け止めることが分かった。また、フリートーキング2より、基幹番組と「砂漠と水と生命」をミックスすると「きたない水」「水が出たときの喜び」から「現地の人との協力」へと思考が流れ、この

図表－6 学習イメージ図<松田学級>

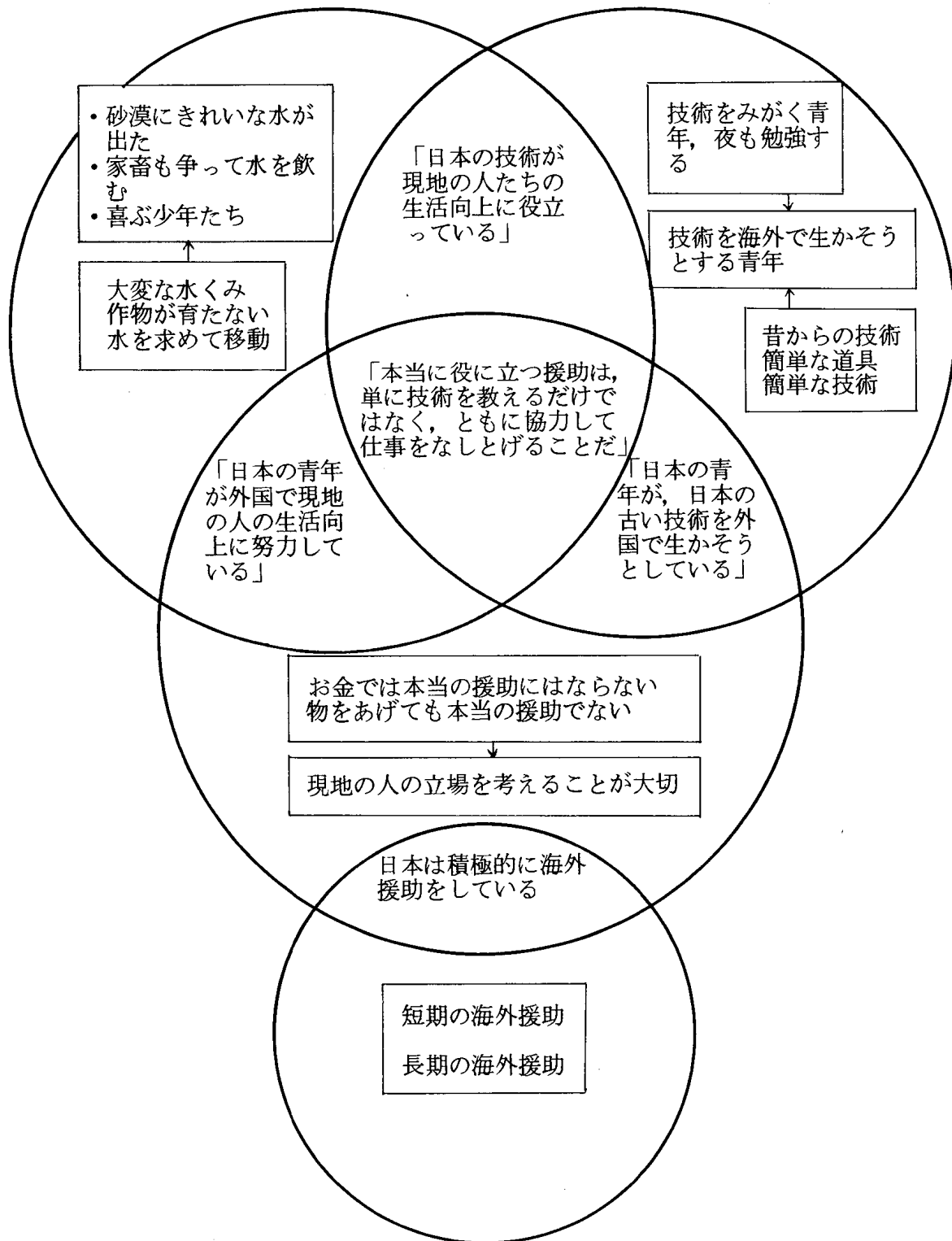


図表－7 学習イメージ図<三田村学級>

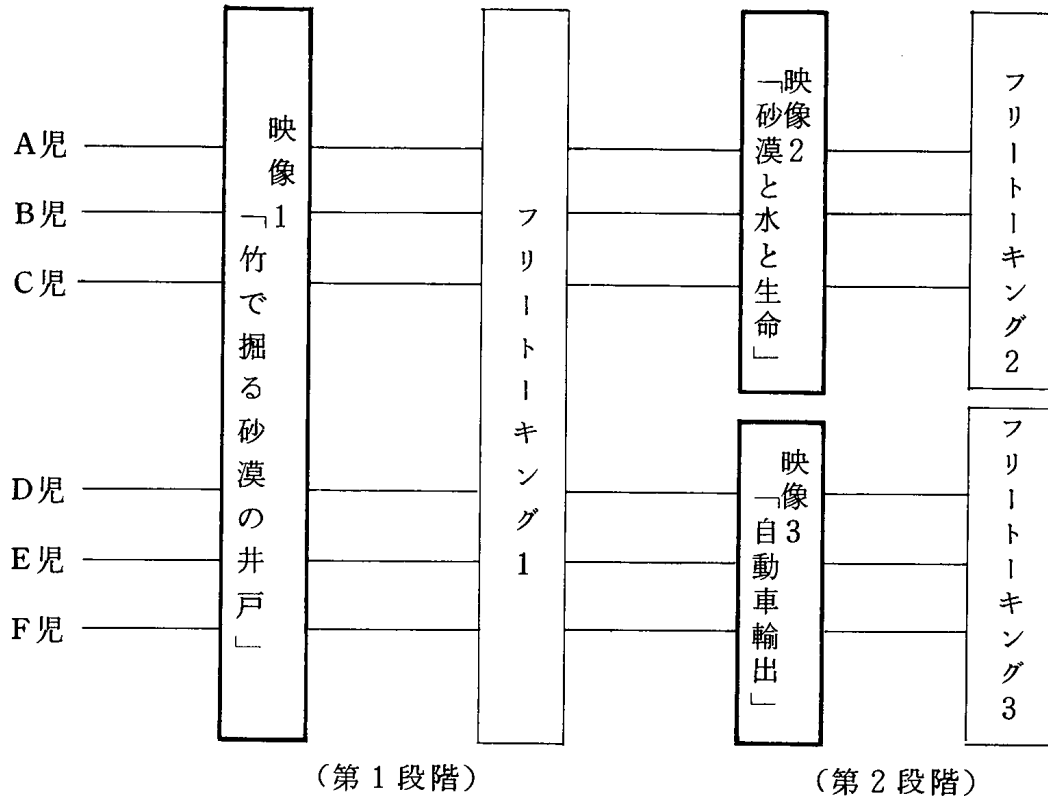


図表－8 学習イメージ図〈岡部学級〉

「竹で掘る砂漠の井戸」



図表－9 ミニ授業の手順

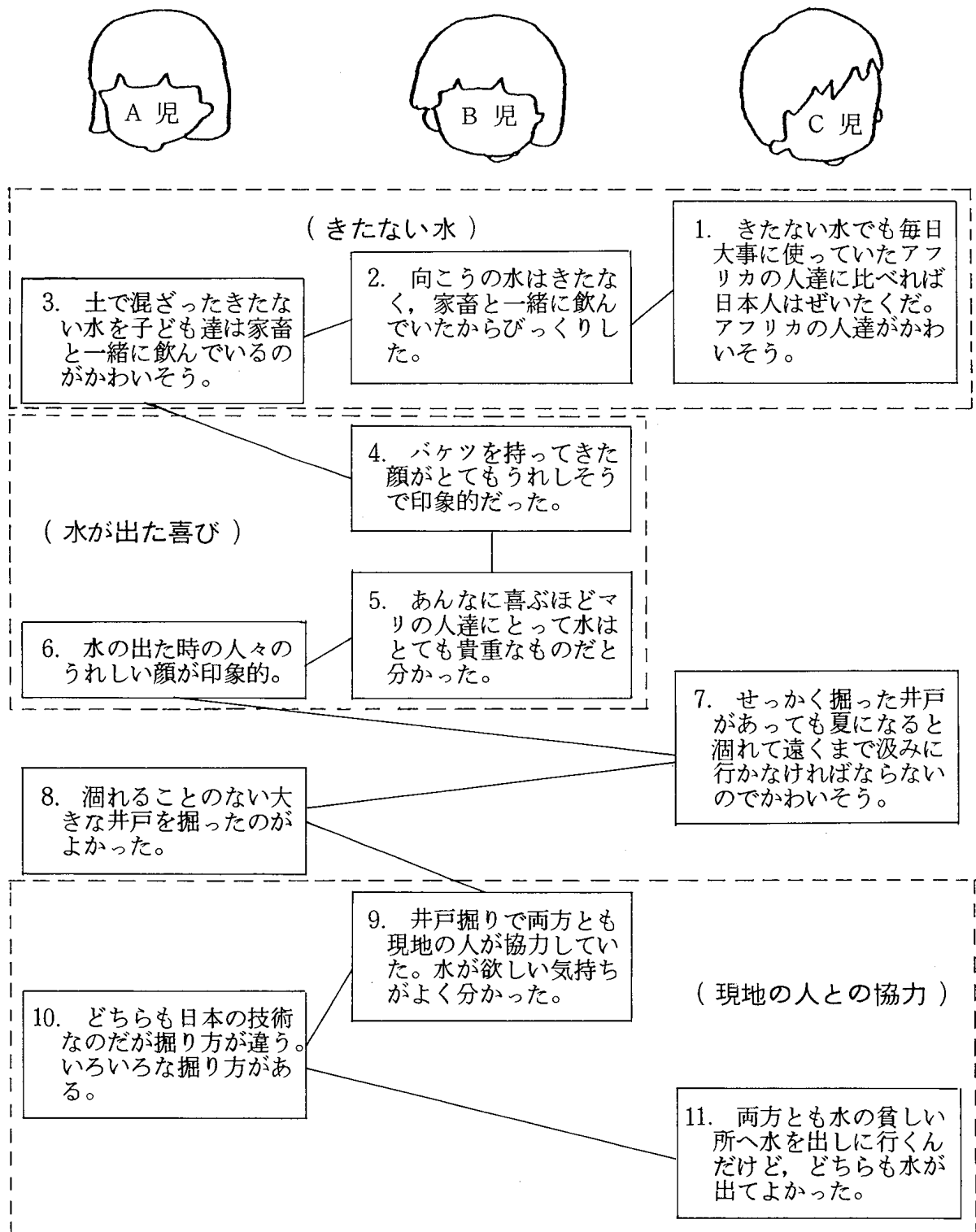


2つの情報は互いに「強化」の関係にあることがはっきりした（図表－10）。さらに、フリートーキング3では、「伝統技術」と「近代工業」とを比較して視聴できる子、基幹番組で持った「技術的な工夫」という視点が変化せず、映像2を視聴している子が発見できた。

2. 授業展開案

授業設計の最後の仕上げがこの授業展開案の作成である。指導過程を決める要素として、「学習メッセージ」「認知と情意の変容」「評価の視点」の3つを考えた。なかでも「認知と情意の変容」はその中心部に当たる。即ち、教師の働きかけに呼応してたどる子どもの期待される思考活動である。また、「学習メッセージ」は子どもにインプットしていく情報である。これは教師の発問や映像、あるいは子ども同士の発言も含まれている。「評価の視点」は指導過程の中にきちんと位置づける「形成的評価」に当たるものと最終的にどんなことを学んで欲しいかを表した「総括的評価」に当たるものを基本に割り付けるようにした（図表－11, 12, 13）。

図表－10 フリートーキング2の思考ルート



図表 1 1－授業展開案＜松田学級＞

1. 題 目 「竹で掘る砂漠の井戸」（日本の技術）
2. ねらい
 - ・社会科の单元「日本の工業」の学習での感想であるところの「日本は優れた技術で世界の国々につき合っている。」をもとに、日本の技術について考え、優れた技術とは先端技術のみではなく相手の事情に合った技術のことであり、それは古い技術の中にもあることに気づく。
 - ・新旧二つの技術に関する情報から、それぞれのよさを読みとり、優れた技術に関する自分の考えをイラストで表現する。
7. 指導過程（総時数 2 時限）

時間	学習メッセージ	認知と情意の変要	評価の視点
10	鉄工業や自動車産業の勉強をしてみてもどんなことを考えましたか	<ul style="list-style-type: none"> ・材料のほとんどを輸入している ・作った品物を輸出している ・外国（世界の国々）とのつながりの中で生活している ・日本は技術で外国とつきあっている ・日本には優れた技術がある 	
		＜日本の優れた技術とはどんな技術なのだろう＞	
10	例えばどんなことに優れているのかな「自動車輸出」（VTR 1）	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの国より進んだ技術、新しい技術、細かいむずかしい技術だと思う ・自動車を例にすると 半導体 カーラジオ タイヤ ベアリング 鉄工業製品 工場のしくみ ・安くて性能の良い日本車はいろいろな国で喜ばれている 	
10	この優れた技術を活かして作った製品はどここの国でも喜ばれているのだろうか	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにもコンピューターや電気製品もそうだ ・喜ばれていると思う ・買えない国の人々は、ほしがっていると思う 	
	そのような国に贈った例をいいます「フィリピンの水あげ機」（新聞記事）	<ul style="list-style-type: none"> ・電気もガソリンもない国もあるのだった ・使えなければ何の役にも立たない ・進んだ技術でつくった物はみんな使えない ・優れた日本の技術のことがわからなくなった 	

時間	学習メッセージ	認知と情意の変容	評価の視点
15	日本の優れた技術についてあなたが思っていることをイラストに書いて下さい	<ul style="list-style-type: none"> ・喜ばれる国が少しでもあればそれでいい ・多くの国とつきあう技術はないのかな ・相手から見たら優れているとはいえない etc 	日本の優れた技術についての自分の考えをイラストにかけたか
15	同じフィリピンで役立っている日本の技術があります 「竹で掘る砂漠の井戸」(VTR2)	<p><日本ほど生活の進んでいない国にも役立つ技術は、ないのだろうか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンで喜ばれている ・水あげ機械じゃなく技術だ 	二つの番組から優れた技術とは何なのかについての自分の考えをイラストに表現出来たか
15	先ほどの新しい進んだ技術とくらべてみましょう	<div> <div> <p>新しい技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気、ガソリン ・難しい ・高い ・工場が必要 </div> <div> <p>古い技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の手足 ・かんたん ・安い ・自然のまま </div> </div>	
15	もう一度日本の優れた技術について考えてみましょう イラストで表現しよう	<p>どちらも役に立っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい技術が喜ばれる国もある ・古い技術の方がいい国もある ・国によっていろいろちがうのだ ・日本の技術は相手のことを考えて使ってこそ優れた技術といえる 	

図表－１２ 授業展開案<三田村学級>

1. 題 目 「竹で掘る砂漠の井戸」(現地の人々と日本人の喜び)
2. ねらい
 - ・「竹で掘る井戸」の技術の習得に励む日本人の様子と「水がない」現地の人々の生活を知り、現地でお互いに協力して井戸掘りをする中で湧き上がる「喜び」について考える。
 - ・より詳しい情報から得た、現地の人々や海外協力隊の心情とその背景を文やイラストで表現できる。
7. 指導過程(総時数 2時限)

時間	学習メッセージ	認知と情意の変容	評価の視点				
8	題名から、どんな内容だと思う？	<ul style="list-style-type: none">・水のない砂漠に井戸を掘る話だ・機械を使わずに、竹を利用して井戸をほるらしい・日本には砂漠はないぞ・きっと外国の話だ・外国へ行って井戸を掘るんだ	現地の人々と日本人を登場させ気持ちを吹き出しに書くことができたか。				
15	竹と砂漠はどんな関係にあるのだろう「竹で掘る砂漠の井戸」(VTR1)	<ul style="list-style-type: none">・上総掘りは簡単で、便利な方法だ・水に不自由している国がある・日本人が外国へ行って井戸を掘っている					
10	現地の人々と上総掘りの人たちの気持ちを考えよう	<p><人々は、どうしてあんなに喜んでいるのだろう></p> <table><tr><td>ミンダナオ島の人々</td><td>上総掘りの人々</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">・雨が降らない・水は貴重だ・助けてもらえた</td><td><ul style="list-style-type: none">・自分達の技術を役立てたい・困っている人を助けたい</td></tr></table>		ミンダナオ島の人々	上総掘りの人々	<ul style="list-style-type: none">・雨が降らない・水は貴重だ・助けてもらえた	<ul style="list-style-type: none">・自分達の技術を役立てたい・困っている人を助けたい
ミンダナオ島の人々	上総掘りの人々						
<ul style="list-style-type: none">・雨が降らない・水は貴重だ・助けてもらえた	<ul style="list-style-type: none">・自分達の技術を役立てたい・困っている人を助けたい						
7	人々の気持ちの入ったイラストをかいてみよう	<ul style="list-style-type: none">・水がほしい					
3	水のない生活について考えよう	<ul style="list-style-type: none">・水が飲めない・体も洗えない・水がないと、病気になったり、死ぬこともある・作物だって枯れてしまう					
22	現地の様子をくわしく見てみよう。「砂漠と水と生命」(VTR2)	<table><tr><td><ul style="list-style-type: none">・乾期には雨が降らない・泥水を飲んでいる・川で洗濯している・水不足で家畜が死んだ・水を求めての移動生活</td><td><ul style="list-style-type: none">・海外協力隊員・役立つ日本の技術・現地の人との協力</td></tr></table>	<ul style="list-style-type: none">・乾期には雨が降らない・泥水を飲んでいる・川で洗濯している・水不足で家畜が死んだ・水を求めての移動生活	<ul style="list-style-type: none">・海外協力隊員・役立つ日本の技術・現地の人との協力			
<ul style="list-style-type: none">・乾期には雨が降らない・泥水を飲んでいる・川で洗濯している・水不足で家畜が死んだ・水を求めての移動生活	<ul style="list-style-type: none">・海外協力隊員・役立つ日本の技術・現地の人との協力						
10	砂漠の様子はどうだったかな？	<ul style="list-style-type: none">・大喜びの少年たち・水をくむ長い列					
	水が出た時の、マリの人たちの気持ちはどうだっただろう	<ul style="list-style-type: none">・きれいな水が飲めるぞ・もう水の心配をしなくてもいい・自分達でも井戸が掘れる・日本のみなさん、すばらしい技術を教えてくれてありがとう					
		<ul style="list-style-type: none">・一緒に踊りましょう					

時間	学習メッセージ	認知と情意の変容	評価の視点
15	<div>海外協力隊員は、どんな気持ちで喜びの踊りをおどっているのだろう</div> <div>イラストで表現しよう</div> <div>・現地の人と海外協力隊員</div>	<div>・きれいな水を出すことができてうれしい</div> <div>・現地の人々がこんなに喜んでくれて、私達もとてもうれしいです</div>	現地の人々の『喜び』と日本人の二重の『喜び』の意味を考えて気持ちをとらえられたか。

図表－１３ 授業展開案＜岡部学級＞

1. 題 目 「竹で掘る砂漠の井戸」（海外協力隊員）
2. ねらい
 - ・竹で地下水を掘る簡便な技術を発展途上国の生活向上にいかそうと、技術の習得に励んでいる青年の活動を知り、何が彼を駆り立てているのか、その心情を推測することができる。
 - ・異なる情報を組み合わせて、青年の心情を関係的なイラストで表現できる。
7. 指導過程（総時数 2時限）

時間	学習メッセージ	認知と情意の変容	評価の視点
5	マリ共和国の実情を知ろう（VTR 1）	<div>・水不足で動物が死ぬことがある</div> <div>・泥水でも飲む</div> <div>・移動生活をしなければならない</div> <div>・作物が育たない</div> <div>・何Kmも水を求めて歩く</div>	
5	何を感じましたか	<div>・水がないということはこんなにも大変なことなのか</div> <div>・私たちは恵まれているな！</div> <div>・見過ごすことはできない。</div>	
5	私たちにできることはないだろうか	<div>・日本の進んだ技術で指導する</div> <div>・お金を送る</div> <div>・新しい農業を指導する</div> <div>・機械を送る</div> <div>・食料を送る</div>	
10	日本は援助活動をしているのだろうか（パソコン）	<div>・短期援助</div> <div>・中長期援助</div> <div>・青年がボランティアでたくさん参加している</div>	

時間	学習メッセージ	認知と情意の変容	評価の視点
20	だれがどんな援助をしているのだろうか (VTR 2)	<ul style="list-style-type: none"> 昔からあった技術 とてもすばらしい技術 そんなに難しくない技術 現地の人でもやれそう 	現地の人のことを考えたイラストが描けたか
10	青年の気持ちをイラストで表現してみよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分から進んで参加している人もいる 青年はどんな気持ちで参加しているのだろうか 	
10	現地の人はどう思っているのだろうか (VTR 3)	<ul style="list-style-type: none"> はしゃぐ子どもたち 水に群がる動物 水が手にはいってとても喜んでいる 	現地の人と協力隊の人の気持ちが通じ合うイラストが描けたか
15	実際に海外協力事業に参加している人はどんな気持ちなのだろう (印刷物)	<p>それだけかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> お金では真に人を助けることにはならない 物をあげるだけでは真の解決にはならない いっしょに喜びあえることが何よりもすばらしい 自分の技術が活かされることが何よりもすばらしい 	
10	青年の気持ちをイラストで表現しよう	<ul style="list-style-type: none"> 本当に役に立つ援助は、苦勞をともにし、いっしょに喜びあうことではないだろうか 	

3. 授業の流れ

図表－14 授業の展開と児童の反応

時	＜松田学級＞	＜三田村学級＞	＜岡部学級＞
1	<p>1. 社会科の勉強の復習をする</p> <p>原料がないので技術で暮らしている。外国にいっぱい頼っている。自動車輸出ナンバー1</p> <p>2. 日本の技術について考える</p> <p>世界で1番。良い品。生産高1位。日本車は安全</p>	<p>1. 番組名から内容を予想する</p> <p>砂漠は水がないから竹で井戸を掘る。砂漠なので道具は竹だ。砂漠の人を救うボランティア活動。</p> <p>2. 番組を視て確かめる「竹で掘る砂漠の井戸」(VTR)</p> <p>ボランティアで井戸を掘</p>	<p>1. マリ共和国の実状を知る「水を求めて」(VTR)</p> <p>アフリカにある国。水に恵まれない国。人間と動物と一緒に泥水を飲んでいた。日本の国はとても豊かだ。マリは貧乏。</p> <p>2. マリ共和国にできる援助を考える</p> <p>募金。食料を送る。医者</p>

時	＜松 田 学 級＞	＜三 田 村 学 級＞	＜岡 部 学 級＞
1 時 限	<p>だから買う。</p> <p>＜日本の優れた技術とはどんな……＞</p> <p>3. 番組を視て確かめる 「自動車輸出」(VTR)</p> <p>4. 日本の優れた技術について考える</p> <p>時間の節約。少ない原料。ベアリングはまねできない。65秒に1台。新しい技術。</p> <p>＜日本技術は世界中で喜ばれているのか＞</p> <p>喜ばれていると思う</p> <p>5. 開発途上国への援助の事実を知る 「フィリピンの水揚げ機」(新聞記事)</p> <p>電気で動くのではなくもっと簡単なものを考えると良い。お金がなく、やり方もわからないのでその国のことを考えてつくれば良い</p> <p>6. 日本の新しい技術について考えを書く ＜イラスト1＞</p>	<p>る。上総掘りという掘り方で掘る。水不足の外国へ行って技術を教えた。</p> <p>3. 現地の人と上総掘りの人たちの気持ちを考える</p> <p>水が出て喜んでる。うれしそう。</p> <p>＜日本人＞ 他の国に役立つ日本の技術が助けた外国人の願いをかなえてあげた。</p> <p>＜現地人＞ 日本に新しい技術を教えてもらった。水不足から逃げ出せる。水がほしい願いがかなった。</p> <p>4. 人々の気持ちを書く ＜イラスト1＞</p> <p>願いをかなえてくれてありがとう。いいことをしていい気持ち。</p>	<p>を連れて行く。砂漠でも育つ物を送る。地下水を掘る。マリの品物を買う。勉強を教えに行く。</p> <p>3. 日本の海外援助の事実を知る 「海外援助」(パソコン)</p> <p>日本はたくさんの援助をしている</p> <p>4. 援助している様子を知る 「竹で掘る砂漠の井戸」(VTR)</p> <p>水の飲めない外国で井戸を掘っている。井戸を掘る方法を教えている。水をきれいにしてあげている。</p> <p>5. 海外協力隊の青年の気持ちを考える</p> <p>マリの人たちのため水が飲めるようにボランティア活動をしてあげたい。お金をとらないです。</p> <p>＜イラスト1＞</p>
2 時 限	<p>7. イラストの発表をする</p> <p>技術が進みすぎたのを送っても役に立たないことがある。技術がない国でもすぐ使えるようなものを作るのが良い</p> <p>9. 役立っている技術について知る 「竹で掘る砂漠の井戸」(VTR)</p> <p>10. 新しい技術と比べてみる ＜古い技術＞ どこでもできる。燃料がいらない。竹だけ使う。簡単。金がかからない。誰にでもできる。感謝される。</p>	<p>5. 水のない生活について考える</p> <p>作物ができない。水が飲めない。体が汚れたまま。病気になる。</p> <p>6. 水のない国の様子を確認する 「砂漠と水と生命」(VTR)</p> <p>泥水でも飲む。機械がないので、手で井戸を掘る。家畜も死ぬ。たくさんの人が水のことで集まる。</p> <p>7. 水が出たときのマリの人々の気持ちを考える</p> <p>うれしい。ほっとした。</p>	<p>6. 援助される人たちの気持ちを考える</p> <p>早く水が出るようにしてほしい。水が飲みたい。ありがたい(青年に)。技術を教えてほしい。</p> <p>7. マリの人々の気持ちを確かめる 「水が出た」(VTR)</p> <p>うれしくて笑っている。喜び飛び跳ねている。水の取り合い。感謝している。感謝の気持ちを込めて踊っている。</p> <p>8. 援助する日本人の気持ちを考える</p>

時	＜松 田 学 級＞	＜三 田 村 学 級＞	＜岡 部 学 級＞
2	<p>＜新しい技術＞</p> <p>楽な暮しができる。石油がいる。研究の積み重ね。ぜいたく。いやがる人もいる。</p>	<p>8. 日本人の気持ちを考える</p> <p>助けてあげてよかった。苦労して掘ったので水が出てうれしい。これからみんな水が飲めるぞ。</p>	<p>現地の人が喜んでくれてうれしい。人を助ける活動ができて良かった。人助けをしたら心がうきうきした。</p>
時	<p>古い技術の方がいい国と、新しい技術の方がいい国がある。</p> <p>11. 日本の優れた技術についてもう一度考える ＜イラスト2＞</p>	<p>9. 人々の気持ちをもう一度考える ＜イラスト2＞</p>	<p>9. 協力隊員の気持ちを確かめる。 「ありがとうネパール」 (作文)</p>
限	<p>日本は技術がいい。その国に合わせて使いやすいものを作って喜ばれている。新しい技術と古い技術両方持っている。</p>		<p>国を豊かにしたい。役立って良かった。簡単だけど使い物になる水の出し方を教えてあげたい。そこの人たちに役立つような物を作りたい。日本と同じくらいにしてあげたい。</p> <p>10. 青年の気持ちをもう一度考える ＜イラスト2＞</p>

4. 利用メディア

＜松田学級＞

- 「自動車輸出」(15分) NHK学校放送番組「くらしの歴史」
- 「フィリピンの水揚げ機」朝日新聞記事

＜三田村学級＞

- 「砂漠と水と生命」(22/40分) 国際協力事業団

＜岡部学級＞

- 「水を求めて」(1.5/40分) 国際協力事業団「マリ共和国地下水開発」
- 「マリ共和国への海外援助」NIFTY「朝日新聞データベース」
- 「ついに水が出た」(5/40分) 国際協力事業団「マリ共和国地下水開発」
- 「ありがとうネパール」国際協力事業団「国際協力」

5. 授業の評価

メディアミックスの授業において、「認知と情意の変容」の評価は、まさに授業の流れに沿った生きた子どもの思考過程の評価であり「質的な評価」である。そこで、子どもが授業の中で書き込んだ「視聴カード」のイラストの変容を追いかけてみた。

<松田学級>

図表－15より、イラスト1では、一方に日本、もう一方に貧しい国をおき、笑顔で語りかける日本人と困っている相手国を対比的に描いている。ここには、映像1に対立する内容のメッセージを取り込んでいるため、日本の進んだ技術について否定的に捉えている様子が見える。ミックス後のイラスト2では、日本を中央におき、相手国を新しい技術を受け入れられる国と古い技術が喜ばれる国に分けている。さらに、自分を登場させ「古い技術の方が仲良くなるみたいだね」と言いながらも、一方では「でも新しくなくなったら……」と、現在の日本のおかれている立場の矛盾を鋭く捉えている。このようにメディアが複合されることにより、複数の情報を関係的に捉え、自分なりの新しい意味発見がみられる。

<三田村学級>

図表－16より、イラスト1では、上総掘りの井戸から水が勢いよく吹き出している様子を中央に大きく描き、笑顔で喜ぶ現地の人々をその上に描いている。さらに右上には、夜の勉強会で現地の人たちが水が出て喜んでいるシーンを見て、「よかった」と喜ぶ日本人を登場させている。これは、1つの映像からのメッセージを自分なりにうまく関係づけて描いたイラストである。しかし、このイラストは、水不足に苦しむ情報が不十分なため、現地の人と日本人の心情理解はまだ浅いと言える。ミックス後のイラスト2では、イラスト1が日本からの視点で描いているのに対し現地へと視点移動をしている。さらに、水が出ることよりも、人物の方をクローズアップさせているのが特徴である。吹き出す水を間に、現地の人々と協力隊員が共に喜び合っている姿が象徴的に描かれている。このように、情報がミックスされることにより、単一情報での一面

的な捉え方から脱却している様子が伺える。

＜岡部学級＞

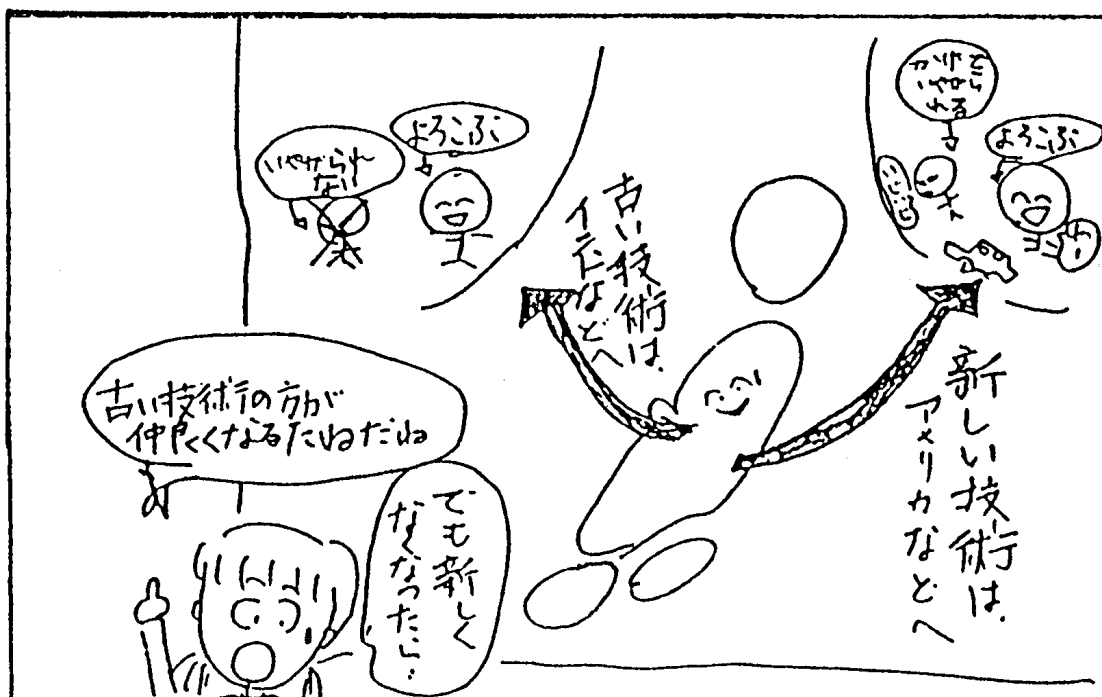
図表－１７より、イラスト１では、日本と外国を両サイドにおき、その間に上総掘りの技術を持って外国へ出かけて井戸を掘って帰って来る日本人を描いている。このイラストは、「竹で掘る砂漠の井戸」のストーリーを自分なりに再構成し１枚に表したものである。しかし、視点はあくまでも日本人の側にあり、相手国や青年の複雑な心情にまで迫っていない。ミックス後のイラスト２は、場面設定がイラスト１と同じであるが、様々な要素が付加されている。まず、日本人と現地の人と共に涙を流し跳び上がって喜び合う様子が描かれている。さらに、それぞれの人物の思いを大きく中央におき、心の中でも手を取り合っていることを表現している。そして、「こんなに僕たちのことを思ってくれている人たちがいるんだなあ」と、単に水が出た喜びだけでなく、援助してくれる人や国へ感謝する現地の人的心情を捉えると同時に、「現地の人もこんなに喜んでくれている」と、青年協力隊員を駆り立てている心情に迫っている。このように、メッセージをいくつか組み合わせる形でのメディアミックスによって、より深い心情理解が可能となると言える。

図表-15 視聴カード〈松田学級〉

〈イラスト1〉

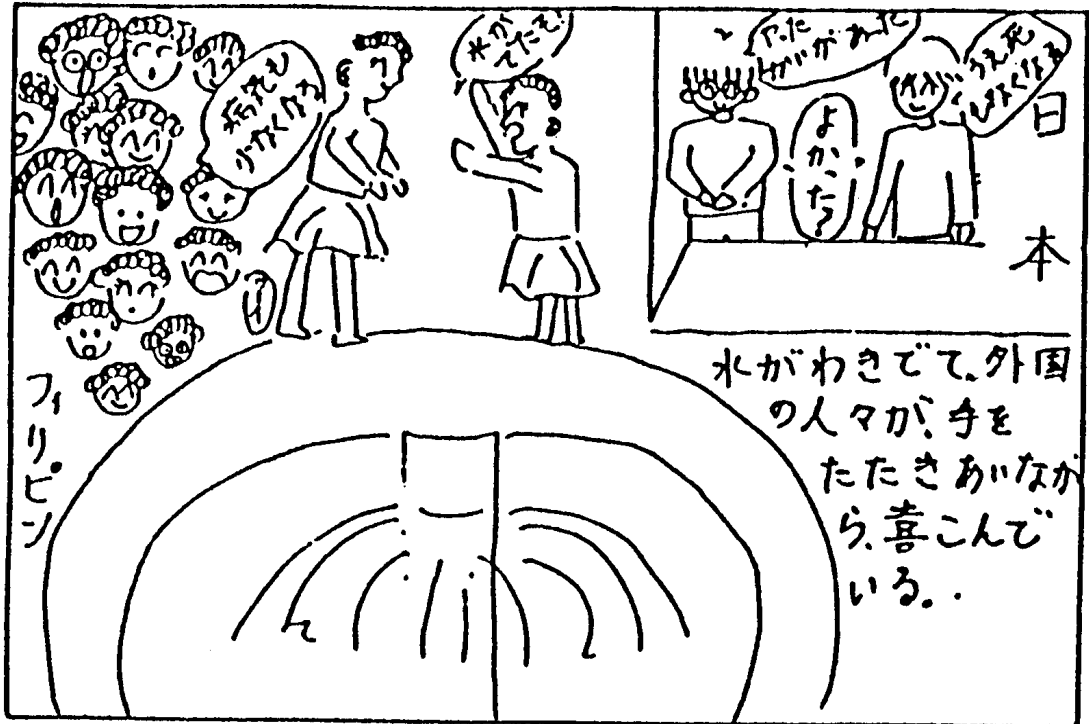


〈イラスト2〉



図表-16 視聴カード〈三田村学級〉

〈イラスト1〉

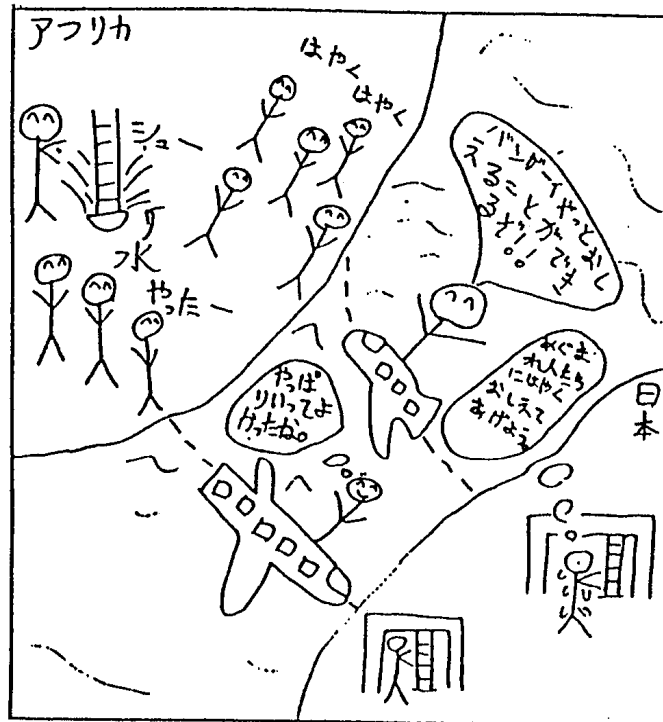


〈イラスト2〉



図表-17 視聴カード〈岡部学級〉

〈イラスト1〉



〈イラスト2〉

